PART2　とも・ど・ども

★「とも」の用法＝「　接」

「　形」＋とも＝　条件（　〜　）

（例）今は逃ぐ**とも**、よも逃がさじ。

★「ど・ども」の用法＝「　接」

「　形」＋ど・ども＝　条件

（例）（男は、自分の両親が女を追い出すので）血の涙を流せ**ども**、とどむるよしなし。

問六　「尋ぬともあらじ」の文法的説明として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　ナ行下二段活用動詞の終止形＋順接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋過去推量の助動詞の終止形
イ　ナ行下二段活用動詞の終止形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋打消意志の助動詞の終止形
ウ　ナ行下二段活用動詞の終止形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋打消推量の助動詞の終止形
エ　ナ行下二段活用動詞の連体形＋順接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の未然形＋禁止の助動詞の終止形
オ　ナ行下二段活用動詞の連体形＋逆接の接続助詞＋ラ行変格活用動詞の連用形＋打消当然の助動詞の終止形

問七　空欄A・Bには接続助詞が入る。A・Bをうめる組合せとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「大弐（だいに）の居所ははるかなれ［A］、楼の上の瓦などの、心にもあらず御覧じやられけるに、またいと近く観音寺といふ寺のありけれ［B］、鐘の声を聞こしめして、…」

ア　ども・ば
イ　ば・ども
ウ　ども・とも
エ　ば・とも
オ　とも・ば

第19講　PART2　確認問題

①「いみじきことありとも、かならずさぶらふべきものに、…」の傍線部の活用形として最も適切なものを、次の中から選べ。

ア　未然形　イ　連用形　ウ　終止形　エ　連体形　オ　已然形　カ　命令形

②「用ありて行きたりとも、その事はてなば、とく帰るべし。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　たとえ用事があって行ったとしても
イ　用事があって行ったけれども
ウ　もし用事があって行ったとしたら
エ　用事があって行ったので

③「船路（なり）ど＊馬のはなむけす。」の（　）内の語を文法的に正しく活用させたものを、次の中から選べ。

注　馬のはなむけ…旅立つ人への贈り物や送別の宴のこと。古代に行われていた、旅に出る人が乗る馬の鼻を、行き先の方に向けて道中の安全を祈る習慣から転じたもの。

ア　なら　イ　なり　ウ　なる　エ　なれ

④「今はと世を離れはべりにし身なれども、今日の御送りに仕うまつらぬこと。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　断定の助動詞「なり」の命令形＋逆接の確定条件を表す接続助詞「ども」
イ　断定の助動詞「なり」の命令形＋逆接の仮定条件を表す接続助詞「ども」
ウ　断定の助動詞「なり」の已然形＋逆接の確定条件を表す接続助詞「ども」
エ　断定の助動詞「なり」の已然形＋逆接の仮定条件を表す接続助詞「ども」

⑤「足ずりをして泣けどもかひなし。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　足をばたつかせて泣くけれども
イ　足をばたつかせて泣くとしたら
ウ　足をばたつかせて泣いたので
エ　足をばたつかせて泣かないように

第19講　PART2　解答

問六　ウ

問七　ア

第19講　PART2　確認問題　解答

〈解説〉

①「あり」はラ行変格活用動詞の連用形か終止形。下の「とも」は終止形に接続する。よって、ウが正解。

②「とも」は逆接の仮定条件を表す接続助詞。「たとえ～としても」という訳ができている。よって、アが正解。

③「なり」はラ変型に活用する助動詞。接続助詞「ど」の上には已然形が来る。よって、エが正解。

④「ども」は逆接の確定条件を表す接続助詞で、上に已然形が来る。よって、ウが正解。

⑤「ども」は逆接の確定条件を表すので、「～けれども」という訳ができている。よって、アが正解。

〈解答〉

①ウ　②ア　③エ　④ウ　⑤ア